

第3部 特別講演

「ONLY ONE !

～君にしかできないことがきつとある～」

癒し系表現者 Kacco 氏

**丸田** それでは、これより「特別講演」を開始いたします。講演していただくのは「癒し系表現者 Kacco (カッコ)」さんです。タイトルは「ONLY ONE (オンリーワン) !～君にしかできないことがきつとある～」です。よろしくお願いたします。拍手でお迎えください。

**Kacco** はい、ありがとうございます。皆さん、こんにちは。早速一番前の列の生徒さんとは目が合って笑ってくれました。こういう可愛らしいフリフリのワンピースを着てますけど声を聞いたら男性というよく分からないキャラクターなので、多分、なんじゃこりゃと思われている方もたくさんいらっしゃると思いますけど、癒し系表現者 Kaccoといます。今日は皆さんに伝えたいメッセージがすごくいっぱいあって、会えるのを楽しみにして来ました。確かこのお話をいただいたのが夏くらいだったと思うんですけど、その日から今日までとにかくすごく皆さんにお会いするのを楽しみにしていました。それではちょっと聞きます。私 Kaccoをですね、なんだかんだで知っているという方、いらっしゃるでしょうか？いないかな、全滅？じゃあ、今日が初めてだという人、手を挙げてください。はい、ほぼほぼ全員ですね。両方挙がらない方は、会ったことがあるような無いようなという感じですかね。はい、実はですね、分からない人もいらっしゃるのをお伝えします。今日講演をさせていただきますが、私は特別な人間でも、皆さんがご存じの著名人でも有名な人間でもありません。ただ、言えるとしたら過去に躁鬱病とパニック障害と摂食障害という心の病を3つ持っていました。それから、引きこもりという5年間を過ごした人間です。もしそのままだったら、今日皆さんに会うこともなくて、まだ自宅で過ごしていたか、もしくは鬱がひどいときなんかは死にたくもなりましたので、もしかしたらこの世に既になかったかもしれない。そういう人間なので、もしかしたら、普通の人

というよりもマイナスの人がする今日の講演だと思ってもらえればいいかなと思います。だから、そんなに固くならなくていいですよ。せっかく若い皆さんから熱気とパワーをいただいているんでね、お昼ご飯を食べられた後ですし、なるべく皆さんが眠くならないように、皆さんが関心があること、興味があることを織り込んでお話ししたいなと思います。

とりあえず、これから話をさせていただきますが、皆さん、今日は私 Kaccoに出会ってくれて本当にどうもありがとうございます。これは私流のよく言う挨拶です、出会ってくれてありがとうございます。毎日ここで顔を合わせるのが当たり前って…皆さん生徒さん同士はそう思っていると思います。でも、それって当たり前なんかじゃなくってすごく特別なんですよ。地球ってすごくでっかいじゃないですか。もっと身近な話をすれば、日本ってまだまだでっかいかな?!それじゃー…同じ地域、ここ栃尾で、ここ栃尾高校で出会う。通ってこれない場所に住んでいたら、まず出会うことがない皆さんなんですよ。だから出会ってすごく特別なんです。今日寄せてもらった私ももちろんそう。この話をいただいた時に、私がさっきチョッピリお話しさせていただいた心の病を経験していなかったら、引きこもりを経験していなかったら、皆さんにお会いすることもお話しすることもなかったと思います。なので、出会ってくれてありがとう。そう心を込めて挨拶したいんです。そして皆さん同士もそうです。特別です、スペシャル。

もう1つ出会いについて言うと、偶然というのはないです。私、今まで生きてきてそれはすごく感じます。じゃあ何か。私が感じるのは、出会いはすべて必然ということです。皆さん、今日までの日々を振り返った時にどう思われますか？皆さんお若いから、私と違ってまだ振り返る日々は長くないかもしれないけれど、今日までをちょっと振り返ってみてください。あの時、自分が困っていた時に助けてくれる人が現れたことがあったなーとか。周りに意外と力を貸してくれる人がいたなーとか。ちゃんと必要な時に必要な人と出会っているんです。言い方を変えれば、今「必然」と言ったけど、奇跡的なことが起こっているんですよ。そうやって

皆さんの人生は支えられているんです、お互いにね。だから、私は今日皆さんに出会ったから、これで私の人生がまたひとつ変わるなと思ってこれからが楽しみでワクワクしています。だから皆さん、今日話を聞いて皆さんがどう思われるか分からないけれども、私は是非2度3度と皆さんに会いたい。それから、今日は講演会だから私が話すこともいっぱいなんだけれど、是非、皆さんの声を聞きたい。今日私はできるだけ皆さんと会話したい。せっかく出会ったんだから、皆さんの話を聞きたいです。そう思っています。

早速ですけど、ちょっとお手伝いしてほしいのですが、今日は1年生から3年生まで全学年いらっしゃるんですね。どこがどの学年なのか私は分からないけれども、どなたでもいいです、お二人、ちょっと手伝ってもいいよという人、手を挙げてもらっていいですか。手を挙げてくれる？おっ、どうぞ、ちょっと前の方へ。はい、ありがとうございます。じゃあもう一人お願いしたいんだけど。大丈夫よ、私噛みついてたりしないから。誰か手伝ってくれないかな、誰でもいいです、そんな難しいこと言わないから。ある意味、誰でもできるから。早速で悪いけど用意してもらったこのホワイトボード動かすのをちょっと手伝ってもらっていい。このホワイトボードを使います。初めての共同作業ですね、お名前は？

**生徒A** Aです。

**Kacco** はい、ありがとうございます。これ、ホワイトボードを前に出しましょう。ここでいいか。皆さん、見えますか？大丈夫？もう一人手伝ってほしいんだよね。あ、ありがとうございます。さっきからちょっと目が合って、来てくれるんじゃないかなと思っていました。すみません、お名前は？

**生徒B** Bです。

**Kacco** はい、よろしくお願いします。ちなみに、何をやるかも分からないで来てくれたんだよね。さっそく、このマーカーを一人1本持ってください。何やると思う？実はですね、私はさっき言った心の病を持っていたじゃない、躁鬱病とかパニック障害とか。で、死にたくもなったなんて話をちらっとしたんだけど、そこからね、一歩踏み出せた原動力というのが、実は、

私が小さい時から大好きだった絵を描くことなんです。絵を描くことから今日への道が続いています。それでそういった躁鬱病やパニック障害、引きこもりにさよならできたのがちょうど2000年です。あれから今20年くらい経っているんだけど…その間、精神科の病院も行かなくてよくなりました。それから、向精神薬というんだけど、精神的なお薬も飲まなくてよくなりました。それだけじゃなく、私は普通の人より健康になっちゃって、風邪で病院に行くこともないくらいです。これも奇跡なんだけど、私が心の病だったあの頃一緒に入院していた人たちの中には、今も病院に入院したり通い続けている人が大勢います。

だから本当に絵を描くことが私に奇跡を起こしてくれたんです。今日、最初に私のことを、癒し系表現者として紹介していただいたんですけど、Kaccoのスタートはイラストレーターだったんですよ、実は。でも考えてみて。イラストレーターは絵を描く人でしょう。みんなの前でこうやってお話したりとか、ステージでイベントの時に司会やったりとかはあまりやらないよね。だから、そういうお仕事が増えてきた時に肩書をどうしようかと思って…。

まあ、どれをとっても表現することでは生きている。あとこうやってお話する時もそうなんだけど、Kaccoさんて癒し系だねって聴いてくれた人たちからはよく言われていました。それで、それをもらっちゃおう、パクっちゃおうと思って、表現者とくっつけたわけ。そしたら表現ってほら、絵を描くのも話すのも表現だし、司会やるのもパフォーマンスするのも全部表現だから。癒し系表現者っていう、新たな肩書でスタートを切ったってわけ。だから私、最初はイラストレーターだったんですよ、単純に。まあ、ちょっと話が長くなったけど、これから私と一緒に絵を描いてもらいます。固まったね、大丈夫？いい？はい、では、お題をもらおうよ。これからみんなで同じものを描きます。何がいいですか？何を描きましょう？簡単です、お題を出すだけだから。何にしよう。お題がないと描けないよね、我々イラストレーターとしてはね。何かお題ください。何にしよう、描きたいものある？悩んじゃうよね、どうしよう。何か

ない？何でもいいよ、好きな何？好きな何ですか？鳥が好き。分かりました、ありがとうございます。ちなみにお名前は？

**生徒C** Cです。

**Kacco** ありがとうございます。で、猫だったけ？冗談ですよ、鳥でしたよね、分かりました。鳥だって。じゃあ、ちょっと描いてみますね、三人で。最初にここに誰がどの絵を描いたか分かるように名前を書こうよ。さあ皆さん、期待してて。どんな鳥を描こうかね。鳥だよ、いい？何だか会場が静かになったから緊張するよね。ねえねえ何になりたいの、将来は。絵を描くのが好きで豆腐屋さんになりたいとかおかしいでしょ？イラスト業界に来る？漫画家？新潟は漫画家さん多いもんね。二人とも、ありがとうございます、感謝してるよ。絵を描いたら和むみたいで、やっと皆さんの声が聞けた。まだ、ちょっと残ってて。もうちょっとお手伝いしてもらってもいい？じゃあ、Bさんが描いてくれた鳥、これは何鳥？あ、カラスね、イメージはね、うん。Aさんは？偶然、二人ともカラスになっちゃったね。栃尾ってカラスが多いの？ああ、そうか、私は何鳥でもないよ。まあ、強いて言うと閑古鳥っていうキャラクターにしようかな、いろいろあるけど、まあ今こんな感じ。見て思ったでしょう？期待してたのにつて。イラストレーターって言ってもこんなもんです、普段。時間掛けなければねえ。まあ、鳥って分かるでしょう？分からない？ね、鳥って分かるよねえ？ちょっとちょっと…モデルはアヒルなんだけどね。

じゃ、みんなに聞くよ。今、AさんとBさん、そして私 Kaccoが同じ「鳥」っていうお題で描きました。何で違う絵ができたんでしょうか？どれひとつ同じのないよね。

さあ、考えてみて。手挙げてって言うとみんなちょっと下向いちゃうね、あと私が行って声かけそうになるとみんな下向いちゃうんだけど、今日は楽しみましょう、みんなでね、是非是非。どんどん参加してください。何なら、私のほうが上手いって思う人がいたらここにきて描いてくれてもいいし。君たちも考えてよ、描き終わってホッとしてないでね。何で、みんな絵が違うんだらうね。このホワイトボードは小

さいから無理だけど、多分ここにいる全員で描いたとしても、みんな違うでしょ。同じ絵は1つとしてないと思うんだ。それはなぜ？先生も一緒になって考えてくださいね。皆さん、この会場がひとつになりますから。はい、なぜでしょう。こうじゃないかなあと言いたい人いたら手を挙げてね。何で違うんだらう？ん、ある？何で違うと思う？ちょっと栃尾の皆さんはおとなしいんだね。大丈夫、最初だけだから、多分ね。だから私、2度3度皆さんに会って、皆さんの声を聞きたいんだよね。初めて出会った時って、緊張するもんね。私だってそう、緊張していますからね、皆さんの前に出て。何だと思う？何で違うんだらう。

**生徒D** 個性ですか。

**Kacco** おお、いいこと言うね。模範解答だよ。

**生徒D** ありがとうございます。

**Kacco** 個性だと思う？

**生徒D** はい。

**Kacco** それじゃあー、個性って何？個性って言われた時、なんとなくそう言われればそうだなと頷いちゃったけど…。でもそれ、個性が違うからの個性って何？何だらう、何だらうなあ。何かモヤっとするなあ。はい、他に違う意見ある？何で三人とも絵が違ったんだらう。

じゃあ、いいや。私の考え言っている？ありがとうございます。これ正解とかハズレとかはないからねえ。私が思うのは、お年も私とあなたたちは違うじゃない？で、オギャーと生まれた家もみんな違うじゃない？住んでいるところも兄弟姉妹じゃない限り多分同じ家には住んでいないし、育ててくれた親御さん、お母さん、お父さんが違うじゃない、みんな。年齢が違ったり、住んでる所が違ったりすると、それぞれ見てきた鳥の数や種類がまず違います。そう、今まで出会った鳥が違うの。この中に兄弟姉妹もいらっしゃるかもしれないけど、兄弟姉妹であっても感じ方や見え方なんかは基本的にはみんな違う。これがすごく大きい。で、私や先生、あと学年が違えば当然年齢も違う。私の方が生徒の皆さんより多少なりとも長く生きていて、いろいろな物を見てきた時間も長い。それによって印象に残っているものも、これを描きたいと思って描く絵も違ってくるのね。二人ともカラ

スというのにはビックリしたんだけど、でも同じカラスの絵でも違うからね。こちらは飛び立ちそうな感じ。そして、こちらは飛ばないで何か考え事をしている感じ、みたいなね。って、今日この講演をさせていただくにあたりタイトルを何にしようかなと考えた時に浮かんだのがこれです。「ONLY ONE (オンリーワン) ! ~君にしかできないことがきっとある~」。そう、みんな違うからオンリーワン。何もできない人なんかいない。違うからこそ違う何かができる。さっき言ったように、皆さん一緒に鳥というテーマで絵を描いても同じものは1つとしてない。それだけ皆さんのカラーも違う。見てきたものが違う、好きな食べ物や嫌いな食べ物違って違う、親御さんも違う、環境も違う、いろんなものが違うんです。あっ、Aさん、Bさんごめんね、どこまでも付き合わせちゃって…。はい、どうもありがと。ありがとうございます。お手伝いしてくれたお二人に大きな拍手をお願いします。これ残しておきましょう、AさんとBさんの絵。

そうなんです、オンリーワンと思うことってすごく大事なんです。私にはこの言葉がすごく助かりました。そう、私を助けてくれました。どんな時か？さっきお話しした、私が心の病だった時です。その時に、他人と違っててもいいんだ。みんな個性が違うんだ。イラストレーターになって間もない頃、私が原稿を持ち込んだ時のお話なんですけど…対応してくれたアートディレクターさんがこう言ってくれたんです。難しい顔をしてね、私が持っていった絵をずうっとこうやって黙って見ているんです、険しい顔で。全部ひととおり時間をかけて見終わった後、言ってくれたこと。「Kaccoさん、このイラストって他に描く人いると思う？」と私は聞かれました。「当然、自分のオリジナルで描いている絵を持ってきていますから、全く同じ絵を描く人はいないと思います。」「そうだよ、それが個性なんだ、みんなと違っていいんだよ。」と…。「みんなと違うところをどんどん出していいんだよ、この世界は。Kaccoさんだから、Kaccoさんにしか描けない絵を描かなきゃダメなんだよ。そして、それを描き続けるんだ。」と言ってくれたんです。そうか、個性か。他人

と違っててもいい。その言葉を聞いた時、私は肩の荷がフッと下りた気がしました。本当に楽になりました。それまでの私の考えは、みんなと一緒になければいけない、みんなと同じことができなければ恥ずかしい。心の病になって落ち込んだ時、死にたいくらいになった時も思いました。普通の人が羨ましい、普通になりたい。ずっとそう思っていたんですね。

今日、冒頭から皆さんすごく気になっていると思うんですが、私が着てるこのワンピース。何でなんだろうって。これも個性です。なぜここに至ったか、詳しいことは後ほどお話ししますね。さっき私がお話したように、個性と言われてフッと楽になりました。もっと個性を出していいんだ、人と違っていいんだと思えた瞬間に私は楽になったんです。気になってる方がいると悪いので、絵を持ち込んだ出版社の結果から先に言うと、使ってもらえませんでした。私は100社近く持ち込んでいるけど、今まで描かせてもらったのは、もう今はなくなってしまいましたけど新風舎さん、日本文芸社さん、小学館さん、この辺です。なんとか、使ってもらえたのはね。

それでは、さっき言いかけた話に戻ります。私の個性であるこの格好、スタイルとは…？男性なのにこういう格好をしているという。多分、皆さん今日一番気にかかっているところだと思います。個性と言い切ってしまうとそうなんです。個性を出していいとアートディレクターさんが教えてくれたからそういう生き方になったんですよ！それも理由の1つかもしれない。でも、もう1つあるんだ。私は幼いころ、物心ついたころからコンプレックスがありました。何かというと、私は小さい頃から小児喘息を持っていました。この中にもいらっしやるかもしれませんが、小児喘息の発作が出てもう死ぬんじゃないかと思った経験を何度もしています。すごく心細いしね、発作が出た時は。そのせいか、ずっと華奢な身体だったんです。太れない。がっちりした身体になれない。プラス、手足が小さい。今日着ているこのドレスは女の子が普通に着ているサイズです。今日履いているこの靴のサイズは24.5cmです。だから今も小さいんですよ、私。靴はメーカーによって24.0cmでい

い時もあるしね。そう、24.0から24.5cmくらい。今、女の子でも私より大きい靴を履いている子はいっぱいいます。Kaccoさん、小さいねって言われます。だからこそ、普通の男性だったら着れないでしょうし、着ようと思わないだろうけど。

イラストから私は再出発して、いろいろな人とのつながりの中でお仕事を紹介していただいて、ステージに上がるお仕事もするようになりました。今もやっているけど、イベントの司会をしたりとか、自分自身がパフォーマーとしてステージでパフォーマンスをしたりとかでステージにも立っています。さっき、私のコンプレックスのお話をしたでしょう。手が小さい、足が小さい、華奢な身体というのがずっとコンプレックスで、男らしくない、堂々とできない、堂々としたって手は大きくならない、というね。その上、周りから言われれば言われるほど、私の中でどんどんコンプレックスが大きくなっていくし自分の心の奥の奥にどんどん押し込んで、鍵をかけたくなるものです。私ที่บ้านにいる時は家族に「男らしくしろ、堂々としろ」と言われ、学校へ行ったら行ったで先生に「もっとお前、堂々としている、なよなよするな」とか、いろいろ言われていました。周りに言われれば言われるほど、そんな自分はダメな人間なんだって思って、ダメダメな自分だなんていう思いが強くなっていきました。もちろん、自分からコンプレックスを口にするのはなかったです。コンプレックスはそんなものです。コンプレックスって、すごく生きづらいじゃないですか。皆さんも1つくらいはあるかと思いますが、そのコンプレックスを個性に変えられないかなと私は考えたのです。それはなぜか？イラストは使ってはもらえなかったけど、アートディレクターさんに個性という言葉を言ってもらった時に楽になった自分がいたから。楽な方が生きやすいに決まっている。だから、何とかして生きづらいコンプレックスを、フッと肩の荷が下りて楽になった言葉である個性に転換できないかなと思ったのです。

そんなことを考えていた頃…私は、イラストから始まってステージにも立っていました。ステージでは何をしていたかという、自作の詩

を書いてそれをステージで朗読したりしていました。そして、ふと気づいたのは、これは自然にしていたことなんですけど、私が書く詩というのは女性目線だったり女性の気持ちを織り込んだものだったのです。ステージで朗読する時も自然と女性の気持ちになり、女性らしい仕草や振る舞い、語りかけ。そして思いました。Kaccoだからこそ、私だからこそ、普通のがっちりした男らしい男性、なよなよしていない男性には着れない女性物の衣装でステージに立とうと…。女性目線の詩を書いているのだから女性の衣装だったらピッタリだしね。ということで一番最初にこういう格好をしたのが、忘れもしません、2002年なんです。今から19年前。それから、ずーっとこういう格好。おかげさまで今日まで様々なお仕事をいただいて、皆さんに貸してあげられるくらい、いろいろな衣装は増えました。ぜひぜひ、コスプレする際にはご用命くださいね。チャイナドレスにナース服、サンタレディ、ゴスロリ、ロリータ系…ほんと、いろいろな衣装が今では200着以上になって、衣装を入れるためのタンスが8本くらい部屋に入っているから、段々私の居場所がなくなってきていて、私は今、畳2畳くらいのスペースで暮らしています。今ではタンスの方が堂々と部屋に居るんです。それでね、今日もこういう姿で講演をさせていただいてるってわけなんです。

これによって、今日見てくれている皆さんもそうだけど、パフォーマンスする時にも、もちろん賛否両論ありました。初めて女性物の衣装でステージに立つってなった時には…何だ、あのパフォーマンスは、何だ、あの格好はとバッシングされるのがむちゃくちゃ怖かったです。だから、ギリギリまでやろうかやるまいか悩みました。本当にギリギリのギリギリで私が出した答え…1回だけやってみよう！ステージを終えた時、苦しいくらい悩んだからこそ涙が出るほど嬉しかったことがありました。またパフォーマンスを見たい、また朗読を聴きたい、Kaccoさんの世界にいると居心地がいい、そんな言葉をお客様から言ってもらえたのです。そして次から次へと求められるようになりました。衣装がある程度揃った頃には、今回のイベ

ントにはこの衣装で来て、このパフォーマンスをしてください、そんな風に衣装まで指定したオファーが増えていました。ストックした衣装に無い場合はそのたびに衣装が増えたりいろいろですが…。もちろん他にも大変なこともあったりします。今日もここへ来るのに朝5時半に起きて、まずはシャワーを浴び、お肌のお手入れから始めて、メイクのベース作り、それから衣装に着替え、メイク。女の子だったらメイクからいきなり入れるけど、元が男性なので、ムダ毛の処理とかかからしないとね。でも、そこまでしても今日ここに来ることができて本当に良かったです。そして、新型コロナウイルスの影響もなく、皆さんと今日この会を持てたことはすごく良かったと思います。私はすごく嬉しいです。皆さんと私には、いろんな共通点があると思います。もしかしたら私と同じように喘息だったという人もいるかもしれないし、コンプレックスがある人も、実は私も心の病だという人も中にはいらっしゃるかもしれない。今日皆さんの声を聞いていないから分からないけれど、でもそういう人にぜひ持ち帰ってほしいんです。今日私がここで皆さんに伝えたい言葉を。心を病んでいても、身体を病んでいても、何もできない時ってないんです。何もできない人なんかいないんです。たとえできないことがたくさんあったとしても、みんな必要な大切な人なんです。

私はよく人材という言葉を書く時に「人財」と書きます。普通皆さんが使う人材って「人材」ですよ。でも私は心の病や引きこもりになったりして、すごくいろんなことに気づかされたり、いろんな経験をさせてもらったりした中で思うことは、人材の「ざい」は財産、財宝の「財」だと思っんです。文字に書くと「人財」ね。今日もここは本当に素晴らしい人財の集まりです。一人ひとり、みんなが優れていると思います。それぞれが得意なところだけ出してくれればいいと思います。さっき、絵を描くのが好きだと言ってくれた人もいます。どうぞ絵を描いてください。お料理作るのが好きだという人。お料理を作ってください。やりたいこと、やっていいんです。なぜならば、皆さん一人ひとは誰かの人生を代わりに生きているわ

けじゃないからです。ねっ、そうでしょ。私、お父さんの人生を代わりに生きています。そんな人いますか？お母さんの人生を代わりに生きています。そういう人いないよね？私にもあったけど、ついそんな気持ちになる時はあるけどね。親にこうしなさい、ああしなさいと強く言われたりするとね。でも実際は違うんだ、そんなのに縛られる必要はないんです。みんな一人ひとり自分の人生を生きてるんだ。

ここで、義務と権利の話をしさせてもらうね。皆さん聞いたことあるでしょう、義務とか権利という言葉…。これも病気が気づかせてくれたんですが…。度々、何で私、心の病になったんだろうと考えました。あの時あいつがあんなこと言ったから私は傷ついて病気になったんだ。親の育て方が悪かったから…。あの時に親があんな風に言ったから私は心の病になってしまったんだ。親が嫌い。あんなことを言ったあいつが嫌い。と、私はかなり人を憎んだり恨んだりしていました。あの時、真っ暗闇な心の病の中で…。でも、そんなことをしても何も進まなかった。何も変わらなかった。ただただ人を恨んで、人を憎んで、時には悔しくて一人で泣いて枕を濡らして…。引きこもってたから時間だけはいっぱいあった。そんな中でしていたことはそんなに日々変わらない。何で自分は心の病になったんだろうと思った時に、そういえば、私は何かをする時に「～しなければならぬ」「こうしなければいけないんだ」そういったものにすごく縛られてきたような気がしました。それは、親のためだと思うこともあれば、人間だからこうすべきだよなと思うこともあったりいろいろです。何か「しなければいけない」って思ってすることって、みんなも経験があると思うけど、つらくない？私はつらかったなあ。今日は学校だから何時までに学校に行かなきゃいけない。こういうこともそうかもしれない。人間は生身です。つらい時もしんどい時もあります。嫌な授業がある時には行きたくない日もあります。でも行く。単位が足りなくなると悪いから。みんな行っているから行かなきゃいけないんだ。学校は行くべきだ。親に行けと言われるから行かないと。全部義務なんだよね。振り返ったらそういう時って全部楽しく

なかった。自分らしくない、自分らしく生きられていなかったなって思いました。じゃあ、義務に対する言葉って何があるんだろう？ 楽な生き方をするためには何という言葉があるんだろう？

探したら「権利」という言葉を見つけました。権利ってどう？ さっき義務では「～しなければいけない」とかだったでしょ。権利はね、たとえばだけ「～してもいいんだよ」。さっき私、思わず先に言っちゃったね。絵を描きたい人は絵を描いていいんだよって…。歌を歌いたい人はどんどん歌ってよ。皆さんがこんなことしたい、あんなことしたいと言ってくれたら全部OK。やりなよ、やればいいよ。できないことがあったら協力するし、私の力で足りなければできる人に声を掛けるし、みんなでやりたいことやろうよ。お互いにできることを出し合って叶えていこうよ。それが一緒にいる意味、共にいる意味です。

それじゃあ、この流れで一緒に協力して何かをやろうとする時のお話を…みんな得意なこともあれば苦手なこともある、当然、私もそうです。いい部分もいっぱいあるけど、もちろんダメな部分もいっぱいだしね。みんなそう。あの人いい人だよねと言われる人もいい人100%ではないはず。いい人の中にもデビルがいたり、あの人嫌だよねと言われる人の中にもエンジェルがいたりします。みんなそう。得意なことも違うし、やれることもやりたいこともみんな違う。私も以前そうだったけれども、自分と違うと、なんだかどつつきにくくて付き合っていけないなと思ってしまうんだよね。自分と違う人は話が合わないしなあと思ってしまう。それじゃあこの中で3年生、ここを巣立った後はどうだろう。1、2年生の人聞いていてね、3年生になった時に思い出してくれたら嬉しいです。みなさんは栃尾高校という学校の中で、ご縁があって出会えた。奇跡的に皆さんが同じ時代に生まれ、生きてるから…。もしも、どちらかが100年ずれて生まれてたら出会えていないんだよ。100歳まで生きれる人なんてほんの一握りだからね。100年なんて長い歴史で見たらどう？ 年表ってあるじゃない？ 100年なんて点だよ、点。その点からずれていたらみんな

出会っていない、お互いにね。だから、私はそれを強調するけど出会って奇跡なんだ。それともう1つ、最初の方で言ったけど出会って偶然じゃないんだ、必然。ここを巣立った後の出会いだってももちろん奇跡だし、必然。必然を今証明するね。なぜ必然なのか。

私は、いろんなところでこうしてお話させてもらう中で、皆さんを、私自身もそうだけど、パズルのピースにたとえます。皆さんもパズルをやったことあるでしょ？ 分かるよね。たとえば、こんな形のピース、出っ張っている部分はプラス、へこんでいる部分はマイナスと考えてください。要は、プラスは得意なところ、マイナスはちょっと苦手だったりできないこと、そういう部分ね。それじゃー、このピースとくっつけるとしたらどのピースかなあ？ と考えた時に、同じ形のピースの人って考え方も同じだったり話が合ったりして一緒に過ごしていて楽しいからくっつきたいと思うよね。でも、何かを作り上げる時、何かをやろうとする時、実は同じピースの人ってくっつけない。なぜかという、自分が得意としている出っ張ってる部分は相手も得意としていて出っ張ってるから。それに苦手なことは両方ともできない。だから、自分が何か一緒にやりたいと思った時、スタートを切ろうと思った時に手をつなぐ人は自分が苦手なところを得意としている人、自分ができないことをできる人。これは物事をやることだけでなく、考え方もそう。考え方も苦手ってあるじゃない、こういうことを考えるのが苦手とかね。計算が苦手だったら、計算が得意な人と手をつなげばいい。

それではそろそろ今日の講演をまとめていきたいと思います。まずは権利と義務からね。皆さん、「ああ、これしなきゃ」と思ったら、その瞬間に切り替えて「私はこれをしていいんだ」と思ってください。そうすれば少しは気持ちも前向きになって晴れるし、楽しくなるからね。人間って、耳から入ってくる言葉にすごく敏感なの。だから声に出して言うとなおさら効果的です。「私はこれやっていいんだ」「絵を描いていいんだ」「音楽をやっているんだ」「楽しんでいいんだ」と。ぜひ声に出して言ってください。

私が一步踏み出してみたい、踏み込んでみたいと思うのはどういう世の中かという話を聞いてくれる世の中。私は皆さんと同じ高校生くらいの時、まあ変わった学生でした。バンドで音楽をやっていたり、絵も描いていて、学校の勉強には正直興味なかったです。だから学校は、義務で行かなきゃと思って行く場所でした。そうして、さっき言った病気も経て。なんでもかんでも、しなきゃしなきゃと思って生きるのはつらいと気づき、義務的な言葉ではなく権利的な言葉を使うことで自分を改善できるならやってみようとして実行しました。本当に使う言葉で生き方が変わります、人生が変わります。何かしようかどうしようか悩んだ時、「しなきゃ」ではなく「してもいいんだよ」と自分に言ってあげてください。自分の一番の応援団は最後は自分だから。自分にゴーサインを出してあげてください。人生ってすごく長いマラソンなんですよ。短距離走じゃない、長いマラソン。その中でやりたいことをやらなきゃ損。楽しまないよね。やる時に怖いし、ビビってしまうのは、失敗したらどうしようと思うから…。私もそうだった。何かやろうとした時に、失敗したらどうしよう。失敗したら恥ずかしい。こんなこと言ったら馬鹿だと思われてしまう。だから言えない、できない、しない。今振り返れば、だいぶ損していたなと思います。声にしなれば、私が思っていることや考えていることは誰にも伝わらないから誰も私を分からないんです。やりたいことがあれば、みんな声に出せばいい。声に出さなかったら協力のしようがない。こんなことしてみたかったと夢を語ってくれてもいいんだよ。夢を語ってくれた時に一緒にのることが出来る。一緒に歩くことができる。これってすごく大きいことなんだ。夢を語ってくれなかったら、夢が叶うことは一生ないんです。死んでから叶うなんてまず有り得ないし。だから言葉にするってすごく大事。まず勇気を出して言葉に出してみてください。「私、バスケットしている時、夢中で楽しい」「いいねえ、バスケット。いい汗かいてるね」って。バレーボールでも何でもいいよ。とにかく、やりたいこと1つは持とう。それをしている自分、輝いてるなという瞬間、みんなにあるから。してもいい

んです。さっき言った世の中に求めていることは、そういう声を聞いてほしいということです。聞く人がいなかったら、言っても無駄だと思うから言わなくなっちゃうんだよね。少なくとも私は、世の中の代表じゃないけれど、冒頭から何度も言っています。皆さん一人ひとりの声が聞きたいです。どんな夢を持っているのか聞きたいです。どんなことをやりたいのか聞きたいです。私、実はこんな苦手なことがあるんだ。それも聞きたいです。欲張りだけどね。人生は「レッツ トライ」と「レッツ チャレンジ」、この2つです。どんどんやっていって。失敗はないから大丈夫。これが一番言いたい、失敗はないの。その時、できなかったらみんな失敗だと思っちゃう。でも、どうして失敗したかが分かれば次は成功する。次じゃなくても先に行ったら成功する。それは失敗じゃない。唯一私が思う失敗というのは、これをやりたいと思ったけどやらなかった。これは失敗。でもやるんだよ。やったら絶対失敗はない、成功しかない。1回で成功はできないかもしれない。でも、こうやったら失敗した。こうやったらまた失敗した。それじゃー、ああしないようにしよう。こうしないようにしよう。それを繰り返し、そうして成功します。絶対成功するから。皆さんが叶えたい夢、どんどん口に出してくださいね。口に出さないから叶わない、成功しない、そこにたどり着けない。どんどん口に出せば、自分一人では力不足だとしても協力する人が現れる。聞いてくれる大人は絶対いるし。皆さんの声を届けてください。

そして、最後にもう一度言います。人生はレッツ トライ。レッツ チャレンジ。どんな小さなことでもいいです。皆さんにやってほしいです。

ということで、あっという間に時間が過ぎてしまいました。実は私、もっといっぱいお話したかったです。いつもは1時間半から2時間の講演をさせていただいているので、40分は正直非常に難しかったです。でも、何か1つでも皆さんの心に残ってくれたり、明日からの生活に少しでもヒントになってくれたら嬉しく思います。今日はずっと聞いてくれてありがとうございます。そして、今日、私 Kaccoに出会ってくれて、本当に、本当にありがとうございます。



た。そして、この機会を与えてくれた皆様に感謝します。どうもありがとうございました。

**丸田** ありがとうございました。生徒の皆さんも何か感じるがあったのではないのでしょうか？今日のこの講演が皆様の「一歩踏み出す」機会になることを願っております。本日貴重な講演をいただきました、Kaccoさんにもう一度大きな拍手をお願いします。

**Kacco** どうもありがとうございました。貴重なお時間を本当にどうもありがとう。

**丸田** それでは、閉会に移ります。栃尾高等学校 大國校長先生、よろしく願いいたします。

**大國校長** はい、じゃあ私のほうから閉会の挨拶です。本日、長岡大学地域連携研究センター主催の「栃尾地域交流促進シンポジウム」ということで、本校体育館を会場に開催することができました。このシンポジウムの主旨は、若者がさまざまな地域資源や課題を考えて、それぞれの立場で一歩踏み出すこと、これについて考える機会を持つということでした。会場で聞いてもらった生徒の皆さん、どうだったでしょうか。最初に長岡大学様のほうから、栃尾高校の生徒は今、どんな風を感じて、どんな風に考えているのかということ客観的に分析してもらいました。そして、自分自身を見つめて、目標を持って踏み出してほしいというお言葉をいただきました。

2つ目、本校の生徒の発表。うちの学校はこんなことをやっているんだということを全校生徒に発表する機会がなかなかなかったので、本当にいい機会をいただいたと思います。

そして、今の基調講演。Kaccoさんからは一歩踏み出す勇気をとということで、ご自身のいろいろな経験から出てきた真の言葉を聞く貴重な機会があったと思います。今回のシンポジウムを経験して、皆さんが今ちょっと悩んでいた、躊躇していたりすることに是非チャレンジしてもらえたら本当に嬉しく思います。開催にあたってご協力いただきました村山学長様はじめ長岡大学の皆さん、本当にありがとうございました。

ました。感謝申し上げます。今日一日が素晴らしい日になったと思います。ありがとうございました。以上で終わります。

**丸田** 以上をもちまして、「2021年度栃尾地域交流促進シンポジウム」を終了いたします。

本日は誠にありがとうございました。